

広島空港特定運営事業等 2024年度事業計画



広島国際空港株式会社

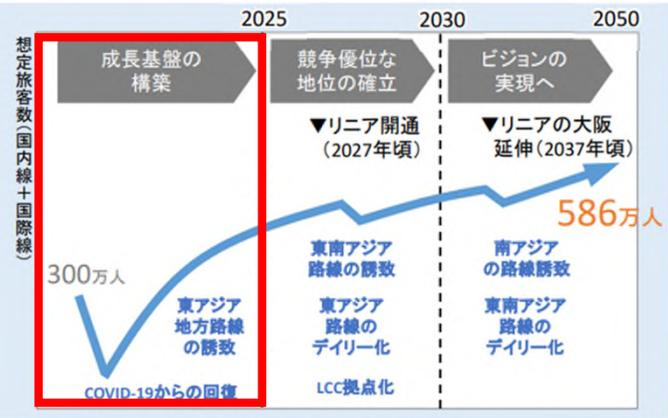
2024年度方針

事業期間終了時に向けたビジョン

中四国の持続的成長を牽引し続ける圧倒的No.1ゲートウェイ
 広島空港を「あらゆる旅行者に最も選ばれる玄関口」へ、
 中四国を「世界に選ばれる目的地」へ

中期計画 (-2025年度)

- ✓ 30年間の将来成長を確かなものとするために、COVID-19による航空需要の一時的蒸発から速やかに立て直し
- ✓ 2030年頃に見込まれる関空・福岡の容量拡大、リニア開業等の外部環境の変化を勘案し、当初5年間を最重要期間として注力



2024年度方針

- ・ターゲットとする路線（韓国をはじめとする東アジア、東京）を中心に路線拡大と拡充に注力する。
- ・地域関係者一丸となり需要創造を行い、更なる航空需要の拡大に繋げる。
- ・旅客ターミナルビルの増築・改修計画を進めるとともに、商業エリアのリニューアル計画を策定する。
- ・関係機関との連携を更に強めながら、安全・安心の取組みを推進する。

■ 旅客数・貨物量目標

		2024年度
旅客数 (万人)	国内線	277
	国際線	40
貨物量(千t)		8

■ 投資計画

(億円)

	2024年度	投資内容
運営権設定施設	5	航空灯火への給電装置更新等
非運営権設定施設	57	旅客ターミナルビル増築・改修、レンタカーステーション新設等
投資合計	62	

具体的施策

航空 ネットワーク

- 既存路線の復便・デイリー化に加え、国際線は韓国をはじめとする東アジア、国内線は東京（羽田・成田）の回復・拡充に注力する。
- 昨年度に引き続き、グランドハンドリング・保安検査体制の構築を徹底的にサポートする。
- 貨物エリアの安定運用のための体制強化、ならびに地域の物流インフラとしての機能強化を目指す。

交通 アクセス

- レンタカーステーションを開設し、空港利用者の利便性を向上させることにより、広域移動を促進する。
- 関係者と連携し、高速バス路線の実証実験として宮島線の継続と山陰・四国方面へのバス路線の検討を行う。
- 福山・尾道へのアクセスバス・乗合タクシーの利用促進策を検討・実施する。

空港施設等の 運用

- 航空需要の拡大を見据えた旅客ターミナルビルの増築・改修計画を進め、PSFC（旅客サービス施設使用料）を導入する。
- 瀬戸内・山陰の魅力を発信する商業エリアのリニューアル計画を策定する。
- 新規就航等の国際線の動きにあわせ、免税売店及び既存店舗の売上拡大をスピード感を持って進めていく。
- 昨年度に引き続き空港の脱炭素化に向けた施策を実施する。

地域連携 ・地域共生

- 地元自治体・各組織等地域関係者一丸となりエリアプロモーションによる需要創造を行い、更なる航空需要の拡大に繋げる。
- 空港全体でのCS・ES活動を推進し、満足度向上を図る。
- 空港周辺での新しい施設の開設を踏まえ、施設間の連携を深め臨空エリアのにぎわい創出を図る。

安全・安心

- 72時間連続稼働の非常用発電機を整備する。
- 国際線の復便等が進むことを踏まえ、関係機関との連携を更に強めながら、安全・安心の取組みを推進する。
- 航空機事故対応等の実践的な訓練を継続して実施し、訓練の精度を高めることで有事対応力の強化を図る。

旅客ターミナルビル増築・改修計画



【東側増築エリア オープンエアラウンジ】



【出国待合室エリア 免税売店】

*イメージ